

【引受保険会社】



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA

* Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

2019年度（2019年4月～2020年3月）

特別勘定の現況 決算のお知らせ

特別勘定名	基本資産配分比率		運用方針
ライフ・ソリューション30	株式	30%	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B)〈適格機関投資家私募〉に主に投資することを基本とします。
	債券	70%	
ライフ・ソリューション50	株式	50%	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B)〈適格機関投資家私募〉に主に投資することを基本とします。
	債券	50%	
ライフ・ソリューション70	株式	70%	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B)〈適格機関投資家私募〉に主に投資することを基本とします。
	債券	30%	
特別勘定名	運用方針		
日本株式	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉に主に投資することを基本とします。		
世界株式	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド(為替ヘッジつき)〈適格機関投資家私募〉に主に投資することを基本とします。		
世界債券	アライアンス・パースタイングローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)に主に投資することを基本とします。		
マネープール	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B)〈適格機関投資家私募〉に主に投資することを基本とします。		

- ※ 特別勘定の種類および運用方針は、将来変更されることがあります。
- ※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。
- ※ 「マネープール」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。ただし、低金利環境下(マイナス金利を含む)では、「マネープール」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

〈お知らせ〉

2019年10月1日から、消費税率が8%から10%に引き上げられることから、運用関係の費用を変更いたしました。詳細はアクサ生命の公式ホームページの「重要なお知らせ」をご覧ください。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)^(注)」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。(*金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。)
- ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・ 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・ 投資信託に関するデータは、投資信託の委託会社による運用報告を、そのまま掲載しております。
- ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。



本商品は、アクサ生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険商品です。預金ではありません。そのため、預金とは異なり元本保証はありません。

【日本株式市場】

日本株式市場は下落しました。年度末の東証株価指数(TOPIX)は前年度末比-11.85%の1,403.04ポイント(前年度末1,591.64ポイント)となりました。年度の前半は、円高米ドル安などから下落する場面もありましたが、米中貿易摩擦の激化への懸念が和らいだことなどを受けて上昇に転じました。年度の後半に入った後も、欧米株式市場が上昇したことなどを背景に上昇しましたが、1月下旬以降は新型コロナウイルスの感染拡大への懸念などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて大きく下落しました。年度末にかけては、日銀によるETF(上場投資信託)買い入れ額の大幅増額や米国株式市場の反発などを要因に下げ幅を縮小しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は下落しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比-15.47%の21,917.16ドル(前年度末25,928.68ドル)となりました。年度の前半は、米中貿易摩擦の激化への懸念から下げる局面もあったものの、米国の利下げ観測の高まりなどを背景に上昇しました。年度の後半に入っても、米中の「第一段階」通商合意文書への署名などからリスク選好が改善したことなどを要因に上昇傾向で推移しました。しかし、1月下旬以降は、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて大きく下落しました。年度末にかけては、大規模な米国経済対策への期待感などを背景に下げ幅を縮小しました。

欧州株式市場は年度前半、中国の景況感改善や、ECB(欧州中央銀行)のドラギ総裁による追加緩和に関する発言などを背景に上昇基調で推移しました。年度の後半は、英国のEU(欧州連合)からの「合意なき離脱」の可能性が低下したことなどからリスク選好が改善したことなどを受けて上昇しましたが、1月下旬以降は、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて大きく下落しました。年度末にかけては、欧州各国政府が経済対策を発表したことなどを要因に下げ幅を縮小しました。市場別の年間の騰落率は、独DAX指数-13.80%、仏CAC40指数-17.84%となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇(価格は下落)し、年度末には0.022%(前年度末-0.081%)となりました。年度前半は、米中貿易摩擦激化への懸念などを受けた欧米金利の低下などを背景に、-0.292%付近まで低下(価格は上昇)しました。年度後半は、国内債券需給の緩みや海外金利の上昇などを受けて国内の金利も上昇しましたが、1月下旬以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて金利は低下しました。年度末にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて国債が増発されることへの懸念などを背景に上昇基調で終わりました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が低下(価格は上昇)し、年度末には0.670%(前年度末2.405%)となりました。年度前半は、米中の貿易関税の引き上げ表明による貿易摩擦の激化への懸念などを受けて、概ね低下基調で推移しました。年度後半は、米中通商協議の進展に対する期待感などを要因に金利は上昇(価格は下落)基調で推移しましたが、1月下旬以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念などを背景に投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて金利は大きく低下しました。年度末にかけては、金融資産現金化の動きの拡がりなどを受けて金利は一時上昇した後、低下して終わりました。年度中に、FRB(連邦準備制度理事会)によるFF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標引き下げが5回、計2.250%引き下げられ、年0.000~0.250%となりました。

欧州債券市場は、独10年国債の金利が低下し、年度末には-0.471%(前年度末-0.070%)となりました。年度前半は、ユーロ圏の景気指標が低水準となったことなどを受けて、金利は低下基調となりました。年度後半は、米中通商協議の進展に対する期待感などを背景に上昇しましたが、1月下旬以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念などにより投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて金利は大きく低下しました。年度末にかけては、金融資産の現金化の動きが広がったことなどを受けて金利は一時上昇した後、低下して終わりました。

【外国為替市場】

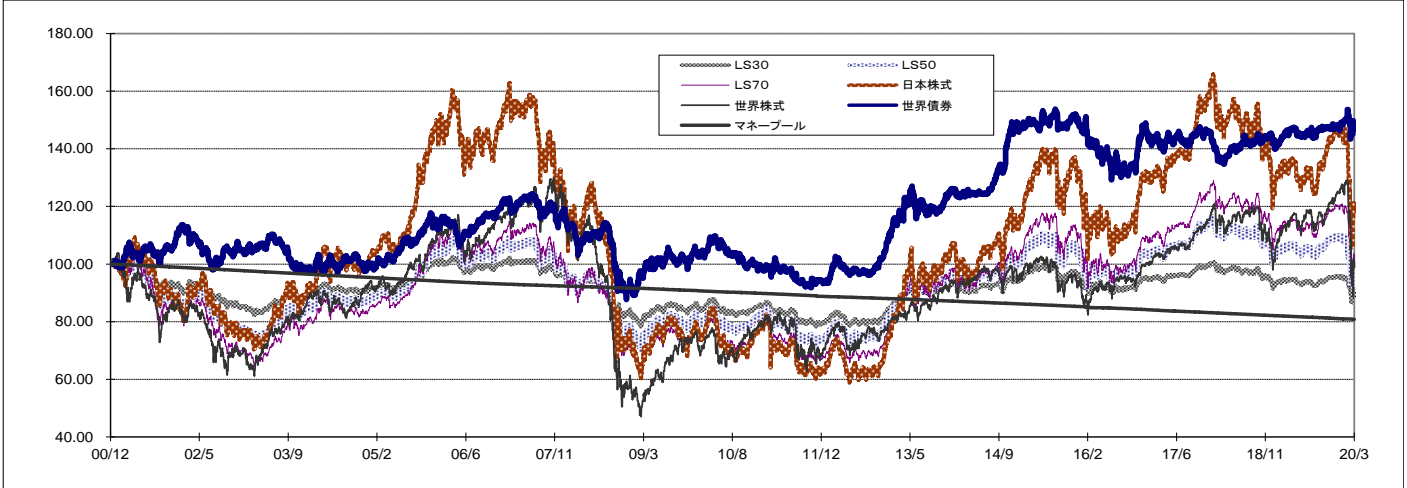
米ドル/円相場は、円高米ドル安となり、年度末には108.83円(前年度末110.99円)となりました。年度前半は、米国の利下げ観測が高まったことや米中貿易摩擦の激化が懸念されたことなどを受けて安全資産とされる円が買われたことなどを背景に円高米ドル安となりました。年度後半は横ばいで推移しましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴う世界景気の下押し懸念などから投資家のリスク回避の動きが強まったことなどを受けて急激な円高米ドル安となり、102.01円をつけました。年度末にかけては、金融資産の現金化の動きが広がったことなどを受けて米ドルが買われたことなどを背景に円安米ドル高となりました。年度を通じては円高米ドル安となりました。

ユーロ/円相場は、円高ユーロ安となり、年度末には119.55円(前年度末124.56円)となりました。年度前半は、イタリアの財政懸念やECBの追加金融緩和観測などを背景に円高ユーロ安となりました。年度後半は、英国の総選挙で保守党が大勝したことなどを背景に円安ユーロ高となりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした世界経済に対する先行き不透明感が意識されたことなどを受けて円高ユーロ安基調で推移となりました。年度末にかけては、EUのユーロ圏が財政出動に係る合意をしたことなどを要因に円安ユーロ高となりました。年度を通じては円高ユーロ安となりました。

特別勘定の運用状況 [2020年3月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



		ライフ・ソリューション 30	ライフ・ソリューション 50	ライフ・ソリューション 70	日本株式	世界株式	世界債券	マネーパール
ユニット プライス	2020年3月末	89.04	97.11	101.93	118.10	100.96	148.92	80.78
	2019年12月末	95.58	109.43	120.06	146.34	125.10	148.39	81.06
	2019年9月末	93.95	105.77	114.20	133.69	116.53	147.61	81.38
	2019年6月末	93.53	104.69	112.47	129.91	116.06	144.89	81.62
	2019年3月末	94.34	105.86	113.98	133.49	113.43	146.38	81.86
	2018年12月末	92.70	102.49	108.65	126.13	101.59	143.30	82.11
騰落率 (%)	1ヵ月	△ 3.19	△ 5.09	△ 6.92	△ 8.32	△ 12.51	△ 1.55	△ 0.19
	3ヵ月	△ 6.85	△ 11.26	△ 15.10	△ 19.30	△ 19.29	0.36	△ 0.35
	6ヵ月	△ 5.23	△ 8.19	△ 10.74	△ 11.66	△ 13.36	0.89	△ 0.74
	1年	△ 5.62	△ 8.27	△ 10.57	△ 11.53	△ 10.99	1.74	△ 1.32
	3年	△ 6.10	△ 6.37	△ 6.50	△ 9.10	△ 2.42	4.30	△ 3.70
	設定来	△ 10.96	△ 2.88	1.94	18.11	0.97	48.93	△ 19.22

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100.00として計算しています。

※ 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ、およびインターネット対応の携帯電話 (<https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70		日本株式	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	53,149	4.4	148,359	4.0	114,675	4.5	98,097	4.3
その他有価証券	1,160,554	95.6	3,585,177	96.0	2,458,445	95.5	2,203,173	95.7
合計	1,213,704	100.0	3,733,536	100.0	2,573,121	100.0	2,301,270	100.0

項目	世界株式		世界債券		マネーパール	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	67,791	4.1	86,606	4.8	28,080	12.2
その他有価証券	1,573,514	95.9	1,722,603	95.2	202,783	87.8
合計	1,641,306	100.0	1,809,209	100.0	230,864	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託/外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用状況 [2020年3月 末日現在]

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	ライフ・ソリューション 30	ライフ・ソリューション 50	ライフ・ソリューション 70	日本株式	世界株式	世界債券	マネープール
	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
利息配当金収入	—	—	—	—	—	48,960	—
有価証券売却益	1,029	1,919	4,899	16,101	7,084	3,167	—
有価証券評価益	—	—	—	—	—	37,515	—
有価証券償還益	—	—	—	—	—	—	—
為替差益	—	—	—	—	—	91	—
その他収益	—	—	—	—	—	—	—
有価証券売却損	612	1,620	3,037	6,613	—	3,315	—
有価証券評価損	56,971	289,717	271,294	265,993	180,923	32,797	278
有価証券償還損	—	—	—	—	—	—	—
為替差損	—	—	—	—	—	149	—
その他費用及び損失	—	—	—	—	—	—	—
収支差計	△ 56,554	△ 289,418	△ 269,433	△ 256,505	△ 173,838	53,472	△ 278

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針 当期のユニットプライス騰落率等はP.3をご参照願います。

■ライフ・ソリューション30

当期の主な動きとしては、米中貿易摩擦の再燃、英国の欧州連合離脱、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが世界経済へ与える影響が懸念され各国が緊急経済策を発表したことがあげられます。米国及び欧州株式市場は、新型コロナウイルスによるロックダウン(都市封鎖)措置が影響して、2月半ば以降下落しました。日本株式も年末にかけて上昇しましたが2月半ば以降下落に転じました。日本債券市場は、景気減速対策として日銀の国債買い入れオペ(公開市場操作)を受け金利は上昇しました。利用する投資信託は、主に資産配分効果が、中でも欧州株式の資産配分効果がベンチマーク対比のパフォーマンスにマイナス寄与しました。今後も引き続き、アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド安定型(B)(適格機関投資家私募)への投資を行う予定です。

■ライフ・ソリューション50

当期の主な動きとしては、米中貿易摩擦の再燃、英国の欧州連合離脱、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが世界経済へ与える影響が懸念され各国が緊急経済策を発表したことがあげられます。米国及び欧州株式市場は、新型コロナウイルスによるロックダウン(都市封鎖)措置が影響して、2月半ば以降下落しました。日本株式も年末にかけて上昇しましたが2月半ば以降下落に転じました。日本債券市場は、景気減速対策として日銀の国債買い入れオペ(公開市場操作)を受け金利は上昇しました。利用する投資信託は、主に資産配分効果が、中でも欧州株式の資産配分効果がベンチマーク対比のパフォーマンスにマイナス寄与しました。今後も引き続き、アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド安定成長型(B)(適格機関投資家私募)への投資を行う予定です。

■ライフ・ソリューション70

当期の主な動きとしては、米中貿易摩擦の再燃、英国の欧州連合離脱、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが世界経済へ与える影響が懸念され各国が緊急経済策を発表したことがあげられます。米国及び欧州株式市場は、新型コロナウイルスによるロックダウン(都市封鎖)措置が影響して、2月半ば以降下落しました。日本株式も年末にかけて上昇しましたが2月半ば以降下落に転じました。日本債券市場は、景気減速対策として日銀の国債買い入れオペ(公開市場操作)を受け金利は上昇しました。利用する投資信託は、主に資産配分効果が、中でも欧州株式の資産配分効果がベンチマーク対比のパフォーマンスにマイナス寄与しました。今後も引き続き、アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド成長型(B)(適格機関投資家私募)への投資を行う予定です。

■日本株式

当期の日本株式市場は、前年度末比で下落となりました。利用する投資信託については、ベンチマーク対比でプラスとなりました。当期の日本株式市場は株式の売買が活発に行なわれた銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナス寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で多めに保有していた移動体通信や医薬品が上昇したことはプラスに寄与しました。個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた中外製薬(4519)やNTTドコモ(9437)が上昇したことはプラス寄与しましたが、多めに保有していたコニカミノルタ(4902)が下落したことや少なめに保有していた第一三共(4568)が上昇したことはマイナス寄与しました。今後も引き続き、アクサ ローゼンバーグ・日本バリューストックファンド(B)(適格機関投資家私募)への投資を行う予定です。

■世界株式

当期の日本を含む世界株式市場は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるロックダウン(都市封鎖)措置により当期末にかけて下落しました。利用する投資信託については、ベンチマーク対比でプラスとなりました。当期の世界株式市場は、企業規模の大きい銘柄が相対的に上昇し、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で少なめに保有したことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で少なめに保有していた銀行が下落したことはプラスに寄与しました。地域別では上昇した北米地域の銘柄を多めに保有したことはプラスに寄与しました。個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有した半導体・半導体製造装置のADVANCED MICRO DEVICES INC. (アメリカ)が上昇したことはプラスに寄与しました。今後も引き続き、アクサIM・グローバル(日本含む)株式ファンド(為替ヘッジつき)(適格機関投資家私募)への投資を行う予定です。

■世界債券

当期の当投資信託では、ユーロ圏やイギリスにおける残存期間戦略が主なマイナス要因となったほか、ユーロ圏の投資適格社債を高めとしたセクター配分がマイナス要因となりました。一方、アメリカやユーロ圏の投資適格社債における銘柄選択はプラス要因となりました。通貨配分は全体として大きな寄与はありませんでした。世界経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、2020年はマイナス成長に陥る可能性が高いとみられています。米国経済も、足元の経済活動は低迷しない休止しており2020年はマイナス成長に落ち込むと予想しています。ユーロ圏経済も新型コロナウイルスの影響からの回復は今後数ヶ月程度要すると見込まれ、2020年はマイナス成長に転じるとみられています。今後も引き続き、アライアンス・パースタイン・グローバル・ボンドII・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)への投資を行う方針です。

■マネープール

当期の日本短期債券市場利回りは僅かに上昇しました。米中貿易摩擦、景気後退懸念で低下基調であった短期国債利回りは、2019年8月に、トランプ米大統領の追加関税措置の再表明によるグローバル金利低下圧力、日銀によるマイナス金利深堀り観測台頭で大きく低下しました。秋口以降、米中通商協議進展期待、日銀マイナス金利深堀り観測低下により、金利は上昇しました。2020年1月中盤より新型コロナウイルスへの警戒で金利は低下、欧米での感染爆発による世界的なリスクオフで3月上旬にかけて急低下しましたが、各国中銀が相次いで利下げや信用補完措置を取ったため、期末にかけては大きく戻りました。利用する投資信託では、金利上昇やサムライ債の下落により、年度のリターンはベンチマークを下回る結果となりました。今後も引き続き、アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B)(適格機関投資家私募)への投資を行う予定です。

《参考情報》 利用する投資信託

[2020年3月 末日現在]

投資信託名	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B) (適格機関投資家私募)						
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社						
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨資産については、原則として為替ヘッジを行います。						
騰落率(%)		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
	投資信託	△3.23	△6.84	△4.85	△4.66	△2.76	11.60
	BM	△2.60	△5.84	△3.89	△3.48	△1.39	20.34
	差	△0.63	△1.01	△0.96	△1.19	△1.38	△8.74
資産配分比率(%)	基本資産配分			各マザーファンド比率			
	日本株式	24.00			23.09		
	米国株式	3.00			2.19		
	欧州株式	3.00			1.82		
	日本債券	30.00			33.80		
	短期金融資産等	40.00			39.10		
ベンチマーク(BM): 下記指数の合成ベンチマーク 東証株価指数(TOPIX) ¹ ...24.00% S&P500種株価指数 ² (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ...3.00% MSCI欧州株価指数 ³ (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ...3.00% ブルームバーグ・バークレイズ・日本総合(3-7年)インデックス ⁴ ...30.00% 日本円無担保コールオーバーナイト物レート ⁵ により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの ...40.00% ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。 (短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)							

《参考情報》 利用する投資信託

[2020年3月 末日現在]

投資信託名	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B) (適格機関投資家私募)							
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM): 下記指数の合成ベンチマーク 東証株価指数(TOPIX) ¹ ...40.00% S&P500種株価指数 ² (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ...5.00% MSCI欧州株価指数 ³ (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ...5.00% ブルームバーグ・パークレイズ・日本総合(3-7年)インデックス ⁴ ...25.00% 日本円無担保コールオーバーナイト物レート ⁵ により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの ...25.00%
	投資信託	△5.25	△11.49	△7.99	△7.48	△3.09	21.52	
	BM	△4.21	△9.63	△6.25	△5.73	△2.52	23.96	
	差	△1.04	△1.86	△1.74	△1.75	△0.58	△2.44	
資産配分比率(%)		基本資産配分			各マザーファンド比率			
	日本株式	40.00			38.94			
	米国株式	5.00			4.14			
	欧州株式	5.00			3.60			
	日本債券	25.00			29.49			
	短期金融資産等	25.00			23.84			(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)
投資信託名	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B) (適格機関投資家私募)							
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM): 下記指数の合成ベンチマーク 東証株価指数(TOPIX) ¹ ...55.00% S&P500種株価指数 ² (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ...7.50% MSCI欧州株価指数 ³ (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ...7.50% ブルームバーグ・パークレイズ・日本総合(3-7年)インデックス ⁴ ...17.50% 日本円無担保コールオーバーナイト物レート ⁵ により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの ...12.50%
	投資信託	△7.19	△15.52	△10.69	△9.94	△3.38	25.87	
	BM	△5.92	△13.36	△8.64	△8.02	△3.86	25.36	
	差	△1.27	△2.16	△2.05	△1.92	0.48	0.51	
資産配分比率(%)		基本資産配分			各マザーファンド比率			
	日本株式	55.00			54.57			
	米国株式	7.50			6.23			
	欧州株式	7.50			5.95			
	日本債券	17.50			22.26			
	短期金融資産等	12.50			10.98			(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)
投資信託名	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) (適格機関投資家私募)							
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM): 東証株価指数(TOPIX) ¹ ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。
	投資信託	△8.68	△19.93	△11.71	△11.03	△6.29	53.43	
	BM	△7.14	△18.49	△11.64	△11.85	△7.24	8.82	
	差	△1.54	△1.43	△0.07	0.81	0.96	44.61	
投資信託名	アクサ IM・グローバル(日本含む)株式ファンド(為替ヘッジつき) (適格機関投資家私募)							
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM): MSCIワールド・インデックス ⁶ (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2015年9月30日)を起点として計算しています。
	投資信託	△13.08	△19.97	△13.54	△10.52	0.89	15.64	
	BM	△12.89	△20.19	△14.59	△10.76	2.69	24.76	
	差	△0.19	0.22	1.05	0.24	△1.80	△9.12	
投資信託名	アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ(クラスS1受益証券)							
委託会社	アライアンス・バーンスタイン・エル・ビー							
運用方針	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。 ※当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM): ブルームバーグ・パークレイズ・グローバル総合インデックス ⁷ ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(1996年11月20日)を起点として計算しています。
	投資信託	△1.19	1.70	0.94	5.26	11.80	178.00	
	BM	△1.56	1.45	0.95	6.59	14.60	221.91	
	差	0.36	0.25	△0.01	△1.34	△2.80	△43.91	
投資信託名	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・ブルー・ファンド(B) (適格機関投資家私募)							
委託会社	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。							
騰落率(%)		1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来	ベンチマーク(BM): 日本円無担保コールオーバーナイト物レート ⁵ により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの ※設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。
	投資信託	△0.10	△0.06	△0.16	△0.14	△0.19	2.05	
	BM	△0.00	△0.01	△0.02	△0.05	△0.16	1.52	
	差	△0.09	△0.05	△0.14	△0.09	△0.03	0.53	

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものととして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

用語説明

- *1 「東証株価指数 (TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。東証株価指数 (TOPIX) は、株式会社東京証券取引所 (以下 東証) の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証が有しています。
東証は、TOPIX の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX の算出もしくは公表の停止、または TOPIX の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数 (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの) は、S&P500種株価指数 (米ドルベース) に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *3 「MSCI 欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI 欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI 欧州株価指数 (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの) は、MSCI 欧州株価指数 (現地通貨ベース) に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *4 ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。パークレイズは、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・日本総合 (3-7年) インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。
- *5 「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。
- *6 「MSCI ワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。MSCI ワールド・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI ワールド・インデックス (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース) は、MSCI ワールド・インデックス (配当込み・クロス・現地通貨建て) に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。
- *7 「ブルームバーグ・パークレイズ・グローバル総合インデックス」は、ブルームバーグ・エル・ピーが公表するインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はブルームバーグ・エル・ピーに帰属します。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について ①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動 (増減) するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動や為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

<年金支払開始日前>

●特別勘定のユニットプライス (単位価格) を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用 (増額費用)	特別勘定繰入前	保険料の 2.0%	保険料から契約初期費用として 2.0% が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。 (増額費用も同じ)
保険契約管理費 (積立金比例額)	毎日	特別勘定の積立金総額に対して 年率 1.2%	当社の経費に充当されます。 (基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。)

* 毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率 1.2% の 365 分の 1 を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について ②

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費 (件数比例額)	月単位の契約応当日	毎月 100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目 1,500円 2回目以降は1回につき2,300円 ^(*)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は無料 2回目からは1回につき800円 ^(*)	1か月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日 および 貸付金の返済時	貸付金額の年利 1.2%	ご契約者に対する貸付制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除費用	解約時	積立金額の 8.0%~0.8%	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の 8.0%~0.8%	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※ ご契約者に対する貸付制度は、ご契約が成立後、当社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※ 将来、上記の内容が変更になることがあります。

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考	
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30	年率0.9900%程度(税抜0.9000%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50	年率1.1000%程度(税抜1.0000%程度)	
		ライフ・ソリューション70	年率1.2100%程度(税抜1.1000%程度)	
		日本株式	年率0.8800%程度(税抜0.8000%程度)	
		世界株式	年率0.5500%程度(税抜0.5000%程度)	
		世界債券	年率0.4600%程度 ^{*1}	
		マネープール	年率0.03575%~年率0.50600%程度 (税抜0.0325%~0.4600%程度) ^{*2}	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客様はこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。

管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。

その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがあります。運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

<年金支払開始日以後>

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の 1.0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <https://www.axa.co.jp/>